

「原子カムラ」の境界を越えるためのコミュニケーション・フィールドの試行
第6回フォーラム検討会議
議事録

日時：平成25年1月18日（金）13：00～16：50

場所：TKP スター貸会議室根津

出席者：12名（順不同・敬称略）

木村（東大）、足立（元気ネット）、植木（元気ネット）、円満字（PONPO）、
大石（PONPO）、神崎（PONPO）、鬼沢（元気ネット）、久保（PONPO）、
渋谷（元気ネット）、竹中（東大）、丸山（NV研）

オブザーバー

川島氏（PONPO）

配布資料

- F6-0. 議事次第
- F6-1. 第5回フォーラム検討会議議事録（案）
- F6-2-1. 第5回フォーラム検討会議逐語録（午前の部）
- F6-2-2. 第5回フォーラム検討会議逐語録（午後の部）
- F6-3. 第5回フォーラム検討会議逐語録付録
- F6-4. フォーラム検討会議の成果をどうまとめるか
- F6-5. フォーラム・マニュアル
- F6-6. コミュニケーション・マニュアル
- F6-7. 放射線学び合い BOOK
- F6-8. フォーラムに関する議論の整理
- F6-9. フォーラムへのご協力をお願い

議題

- 0. 議事録確認
- 1. 「コミュニケーション・マニュアル」の確認と検討
- 2. 「フォーラム計画書」の検討
- 3. その他

議論の詳細については、逐語録に記録されている。

0. 議事録確認（配布資料 F6-1、F6-2-1、F6-2-2、F6-3、F6-4、F6-5）

木村氏より、主に資料 F6-4 に基づき、前回までの議論が整理された。

また、木村氏より、資料 F6-5 に基づき、今後の議論の方向性（「フォーラム・マニュアル」の作成）について、説明がなされた。

1. 「コミュニケーション・マニュアル」の確認と検討（配布資料 F6-6）

資料 F6-6 は「1. 話し合いのときに意識するポイント」と「2. ファシリテーションルール」から構成される。「1. 話し合いのときに意識するポイント」について、各自が目を通した後に、詳細な検討が行なわれた。重要な論点を以下に示す。

- ・ 最初の表から「求められる要素」が削除されている。後々の内容を読んでいくと「求められる要素」は分かっていくが、表にも載せたほうが、理解の助けになるのではないか。
- ・ 1－3「専門家の間で見解が割れているような場合」について、活発な議論がなされた（以下に示す）。→結論として、この表現のままで留めることになった。
 - 市民は、見解が分かれていることすら分からない可能性がある。
 - 意見が 9：1 で割れているとき、1 側の専門家が「見解が割れている」と主張するかもしれない。それを聞いた市民は、5：5 くらいなのかと感じるおそれがある。
 - 違う見解が存在するということが分かること自体が重要なのではないか。
 - こういう質問に答えてくれる専門家が必要だ。
→答えられないような人は専門家とは言えない。
 - ここに細々としたルールを書き込むのは難しいのではないか。
 - これは話すときの心得なのだから、「気になったら自分から聞きましょう」ということが伝わればいいのではないか。
- ・ 1－4「これをするための方法論もいくつかあります。」とあるが、具体例はないのか。
→要検討。
- ・ 1－5「また、その人が生活している環境や、仕事上の都合で、話している事柄に関する情報が不足していたり、意見や感情が偏ったものになったりすることがあるので、そのことを皆で認識しましょう」は、「環境や仕事の原因で偏りが生じていること」を認識するのか、「その人」が偏っていると認識するのか、意味がつかみにくい。
→前者である。誰もが偏りうるということを認識せよという意味。
→「その人が」ではなく、「誰もが」という表現に変える。「お互いに認識する」とする。
- ・ 1－5「協働」という単語は、人によって捉え方が違うのではないか。分かりやすい単

語に変えてはどうか。→「次のステップに向けて協働する」とする。

- ・ 1-5「考えなしに否定しない」は、言いたいことは分かりやすいが、表現がやや乱暴ではないか。→「多少の意見や感情の違いがあっても否定しない」に変更。

「2. ファシリテーションルール」はまだ未完成であり、議論は行なわれなかった。

1、2ともに、今回の議論を踏まえつつ木村氏、竹中氏が中心となって再考し、次回にさらに内容を検討することとなった。

2. 「フォーラム計画書」の検討（配布資料 F6-7）

鬼沢氏より、資料 F6-7 の説明があった。本プロジェクトに関わりの深い議論を以下に示す。

（資料 F6-7 は、持続可能な社会を作る元気ネットが別プロジェクトで作成した、ワークショップ初心者のためのワークショップ開催マニュアルである。そのためハードルは低めに設定されている。物足りないと感じた場合は、各々がその後改善してほしいというのが元気ネット側のねらいである。）

- ・ ファシリテーターに男女差はないのか。→個人差のほうが大きいのではないか。
- ・ ここではポストイットで見える化をしているが、パワーポイントを作成し見える化を行っている例もある。
 - そのほうが早かったり、見やすいという利点もある。一方、意見が消されてしまったり（⇨ポストイットは意見が残る）、全体の議論の構図が見にくいという欠点もある。
- ・ 参加者にファシリテーター役をしてもらう：参加者にファシリテーション技術を身につけてもらうことがねらいではない。意見を聞いたり仲介することで、多様な意見があることを知り、また自分の考えを整理させることがねらい。
 - 地域のワークショップで地域の方にファシリテーターをしてもらうことによって、そういった効果は現れているか。
 - 現れている。態度に違いが出ている。1回のワークショップで得るものは、ファシリテーター役の人のほうが多いと思う。
- ・ グループワークは、1グループは何人くらいで行なっているか。
 - 6、7人程度が多い。時間が短ければ人数を減らせば、1人あたりの時間が増える。そういった臨機応変の対応はしている。

うまくいった事例・要因：

- ・ 人の意見をよく聞くこと。

